

# 第 13 回 関東産婦人科乳腺医学会

## 主題

みらいを自分でデザインしよう  
あすの夢がかなうように

【会長】 瀬戸 裕

医療法人慈桜会瀬戸病院 理事長

【会期】 2022 年 8 月 28 日（日）

【会場】 都市センターホテル（ハイブリッド開催）

---

## 目 次

---

|           |         |
|-----------|---------|
| ご挨拶       | -----3  |
| 参加者の皆様へ   | -----4  |
| 現地会場ご案内   | -----6  |
| 日程表       | -----8  |
| 学会・研究会予定  | -----9  |
| 講演抄録・略歴   |         |
| 講演 1      | -----12 |
| 講演 2      | -----14 |
| 講演 3      | -----16 |
| ランチオンセミナー | -----18 |
| 講演 4      | -----20 |
| 講演 5      | -----22 |
| <br>      |         |
| 協賛企業一覧    | -----24 |

---

## ご挨拶

---

### 第13回関東産婦人科乳腺医学会開催にあたり



この度、2022年8月28日に開催される第13回関東産婦人科乳腺医学会を担当させていただき大変光栄に存じます。

乳腺診療について改めて考えるとき、まず思い出されるのは、帝京大学医学部産婦人科初代教授の(故)荒井清先生の言葉です。先生は「産婦人科でも乳房を見なければ、日本の産婦人科医は乳腺を置いてきてしまった。みんなで学んでほしい。」と話され、我が国の産婦人科における系統的な乳がん及び良性疾患診療の礎を築かれました。

日本では、以前から外科医が中心になって乳房の診察をしており、現在でもそれは変わっていません。乳腺の生理的機能だけでなく、症状について関与すべき点は多く、産婦人科医が積極的に診察を行う必要を感じておりました。

実際に乳腺外来の診察を産婦人科で行うと若い人たちの乳房のしこり等様々なトラブルに遭遇します。妊娠出産のときの診察でも多種多様な乳房の心配事の相談があります。診察を進めていくと、外科で直接診察するよりも産婦人科で診察を希望する方が多く見受けられます。そのため、産婦人科と外科が協力しあい、放射線科、内科、各科連携をし、産婦人科医と外科医、助産師、看護師、放射線技師が力を合わせ診察することの重要性を再認識しております。

乳腺専門医がこれらすべての患者様を診るのではなく、産婦人科医も検診を行い、放射線技師、助産師、看護師も参加する。そのうち何らかの疑いの高い患者様を乳腺専門医が診るようなシステムを構築することが出来れば、それぞれにとって患者様に対してのより良い医療を提供することが出来るのではないのでしょうか。このことが日本女性罹患率トップでさらに増加している乳がんの早期発見にもつながるのではないかと考えられます。

昨年度関根憲先生が会長を務められた学会は画像診断を中心に開催され、普段の診察にすぐに活用できる素晴らしい講演が多くありました。今年はさらに画像診断だけでなく、遺伝性の乳癌疾患についての講演や助産師、看護師、放射線技師等のコメディカルの方にもご興味のある講演を予定しております。医師、コメディカルの連携強化も含め、未来の診療につながる発展させた学会を目指していきたいと考えております。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

第13回 関東産婦人科乳腺医学会  
会長 瀬戸 裕  
(医療法人慈桜会瀬戸病院 理事長)

---

## 参加者の皆様へ

---

### I. 参加費

医師 8,000 円

その他の方 4,000 円

初期研修医・学生 無料 \*身分証のコピーを Email 添付にて事務局へお送りください。

### II. プログラム抄録集

ご登録された方に PDF にて Email 添付送信させて頂いております。追加で冊子が必要な場合には、事務局へご連絡の上、別途ご購入ください (1部 1,000 円)。数に限りがございますため先着順とさせていただきます。

### III. 各種研修証明について

参加者には当日、以下を発行いたします。

<研修単位>

日本産婦人科乳腺医学会 乳房疾患認定医単位

日本産婦人科乳腺医学会乳房エキスパート看護職制度認定単位

日本産科婦人科学会専門医研修参加証明

日本専門医機構産婦人科領域講習

日本産婦人科医会 研修参加証

日本医師会生涯教育制度参加証

日本助産評価機構 WHC 研修

### IV. 当日の運営について

第 13 回関東産婦人科乳腺医学会は、ハイブリッド形式にて開催させて頂くこととなりました。この度の学会開催では、オンライン会議システム Zoom を使用します。ID、パスワードによってセキュリティーチェックを実施しますが、公共システムを利用するために注意が必要です。以下の通りご案内申し上げます。ご理解ご協力賜りますようお願い致します。

- 座長と演者のみがカメラとマイクを使用する設定で進行させていただきます。
- オンラインによる学会での発表に際し、本学会では各自のコンピューターの操作・インターネット接続・映像・音声等のトラブルの対応はできません。ご自身での解決をお願いします。
- 配信画面の録画、静止画記録、録音を一切禁止致します。
- ID、パスワードの譲渡・共有は禁止致します。これに関わるトラブルが発生した場合、本学会では責任を負いかねます。
- 本オンライン学会参加に要する通信料は、参加者の自己負担と致します。

## V. オンデマンド配信について

第13回関東産婦人科乳腺医学会ホームページ

<http://www.academiasupport.org/13kanto-jbsgo.html>

から学会プログラム（一部を除き）をオンデマンド配信致します。

閲覧期間は2022年9月5日（月）から9月30日（金）の予定です。

## VI. 現地会場参加の方へ

- ・参加受付は、当日午前8時30分より、講演会場前にて行います。  
参加費と引き換えにネームカードをお渡し致します。
- ・会場内において、写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ・携帯電話は、マナーモードにするか、電源をお切りください。
- ・会場内でのお呼出は原則行いません。
- ・この度の新型コロナウイルス感染対策について以下の通りご案内申し上げます。ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。
  - ◇ ご来場に際しましては、必ずマスク着用をお願い申し上げます。
  - ◇ 会場入り口にて、検温、消毒を実施頂きます。
  - ◇ 37.0度以上の発熱がございました場合はご入場を見合わせて頂く可能性もございます。
  - ◇ 会場での感染防止対策は、以下のように策を講じて感染予防に万全を期しております。
    - 検温、消毒、マスク着用の徹底
    - 定期的な室内の換気
    - 机、椅子、ドアノブ等のアルコール消毒
    - 座席間のアクリル板の設置
    - ソーシャルディスタンスを保ちながら移動できるよう入退室時の誘導

ご不明な点等ございましたら、以下事務局へお尋ねください。

皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。どうぞよろしくお願い致します。

### 【お問合せ先】

第13回関東産婦人科乳腺医学会運営事務局

一般社団法人アカデミアサポート内

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-24-7-920

Tel : 03-5312-7686 Fax : 03-5312-7687

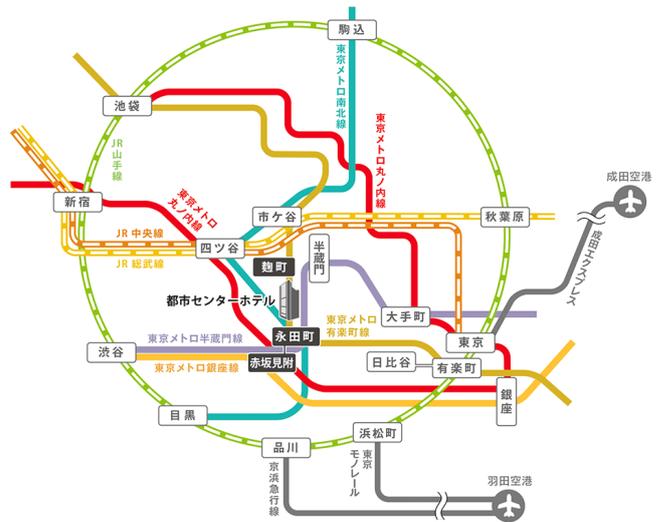
Email: 13kanto-jbsgo@academiasupport.org

## 現地会場ご案内

現地会場：都市センターホテル 5階  
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1

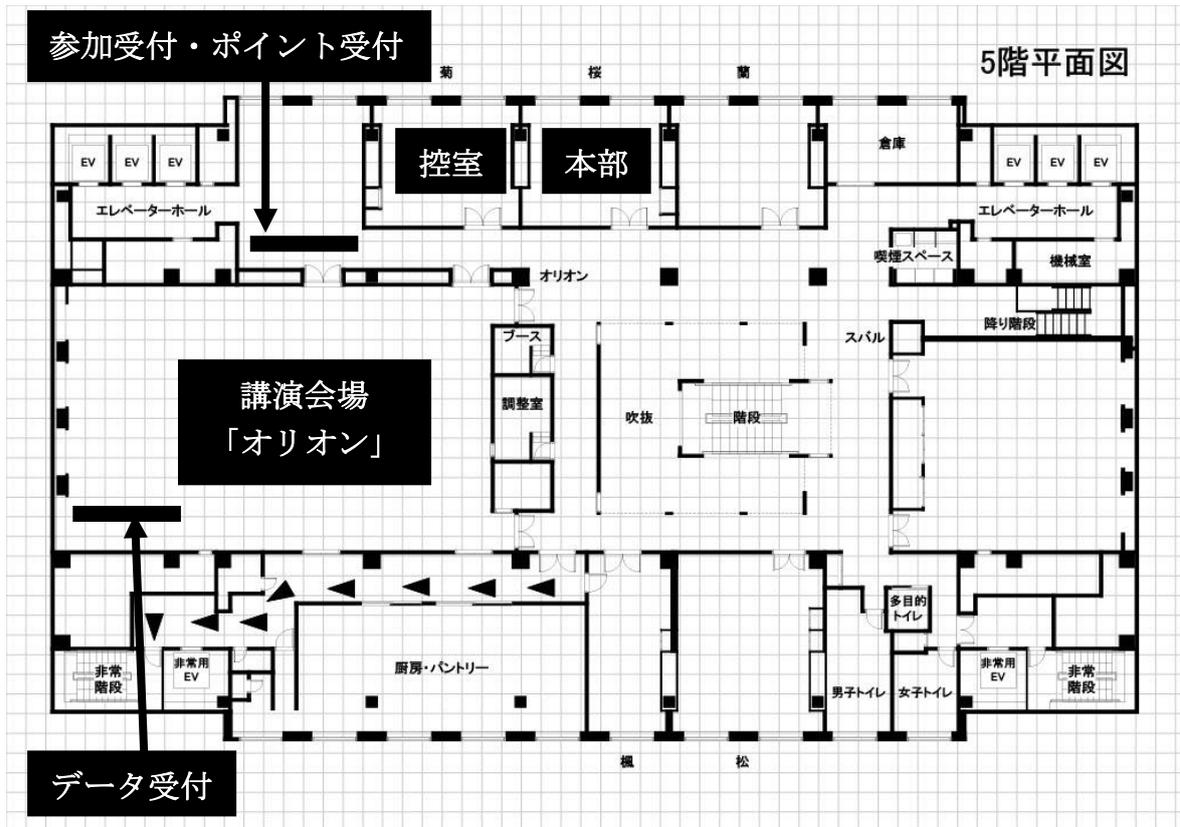
### 【交通のご案内】

- ・東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線  
「永田町」駅 4番・5番出口より徒歩約4分、  
9b番出口より徒歩約3分
- ・東京メトロ 有楽町線「麹町」駅  
半蔵門方面1番出口より徒歩約4分
- ・東京メトロ 丸ノ内線・銀座線  
「赤坂見附」駅 D出口より徒歩約8分
- ・JR中央線「四ツ谷」駅  
麹町口より徒歩約14分



【会場見取図】

都市センターホテル5階



講演会場：5階「オリオン」

参加受付・ポイント受付：5階「オリオン」前ロビー

データ受付：5階「オリオン」前方左手

控室：5階「菊」

学会本部：5階「桜」

クローク：1階フロント横

## 第 13 回関東産婦人科乳腺医学会 日程表

| 時間          | プログラム                                                                                                                                                    |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 08:55～09:00 | <b>開会の辞</b> 瀬戸 裕 (医療法人慈桜会瀬戸病院 理事長)                                                                                                                       |
| 09:00～10:00 | <b>講演 1 「遺伝性乳がん卵巣がんの当事者・家族に必要な援助」</b><br>演者：大川 恵 (聖路加国際病院 遺伝診療センター・外来系 I (乳腺外科・腫瘍内科・オンコロジーセンター))<br>座長：坂田 清美 (帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科 母性看護学・助産学)           |
| 10:00～10:10 | 休憩 10 分                                                                                                                                                  |
| 10:10～11:10 | <b>講演 2 「遺伝性乳癌疾患 ―HBOC 乳癌を中心に―」</b><br>演者：竹下 直樹 (東邦大学医療センター佐倉病院 臨床遺伝診療センター・産婦人科)<br>座長：土橋 一慶 (千川産婦人科医院)                                                  |
| 11:10～11:20 | 休憩 10 分                                                                                                                                                  |
| 11:20～12:20 | <b>講演 3 「乳癌治療の個別化と低侵襲局所療法」</b><br>演者：佐藤 一彦 (東京西徳洲会病院)<br>座長：長阪 一憲 (帝京大学医学部産婦人科学講座)                                                                       |
| 12:20～12:30 | 休憩 10 分                                                                                                                                                  |
| 12:30～13:30 | <b>ランチョンセミナー</b><br><b>「有床診療所における妊婦乳房スクリーニングの実際」</b><br>演者：赤川 元 (赤川産婦人科)<br>座長：岩瀬 一 (堀越医院)<br><div style="text-align: right;">【共催：富士フィルムヘルスケア株式会社】</div> |
| 13:30～13:40 | 休憩 10 分                                                                                                                                                  |
| 13:40～14:00 | <b>総会</b>                                                                                                                                                |
| 14:00～15:00 | <b>講演 4 「マンモグラフィと超音波検査の総合判定の実際」</b><br>演者：大貫 幸二 (宮城県立がんセンター乳腺外科)<br>座長：宮城 悦子 (横浜市立大学医学部産婦人科)                                                             |
| 15:00～15:10 | 休憩 10 分                                                                                                                                                  |
| 15:10～16:10 | <b>講演 5 「産婦人科の臨床で、よく遭遇する乳房疾患」</b><br>演者：関根 憲 (関根ウィメンズクリニック)<br>座長：寺本 勝寛 (山梨県厚生連健康管理センター婦人科)                                                              |
| 16:10～16:15 | <b>関東産婦人科乳腺医学会 代表挨拶</b><br>宮城 悦子 (横浜市立大学医学部産婦人科)                                                                                                         |
| 16:15～16:20 | <b>次期会長挨拶</b> 高松 潔 (東京歯科大学市川総合病院産婦人科)                                                                                                                    |
| 16:20～16:25 | <b>閉会の辞</b> 瀬戸 裕 (医療法人慈桜会瀬戸病院 理事長)                                                                                                                       |

---

## 学会・研究会予定

---

### 第19回日本乳癌学会中部地方会

会期：2022年9月3日（土）・9月4日（日）

会場：Web開催

当番世話人：中野 正吾（愛知医科大学 乳腺・内分泌外科）

### 第20回日本乳癌学会北海道地方会

会期：2022年9月10日（土）

会場：札幌医科大学（臨床教育研究棟）

当番世話人：三神 俊彦（医療法人社団 札幌ことに乳腺クリニック 副院長）

### 第19回日本乳癌学会中国四国地方会

会期：2022年9月23日（金・祝）・24日（土）

会場：高知県立県民文化ホール

当番世話人：高島 大典（高知医療センター 乳腺・甲状腺外科 科長）

安藝 史典（伊藤外科乳腺クリニック 理事長）

### 第49回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会

現地会期：2022年10月8日（土）～9日（日）

現地会場：米子コンベンションセンター BIGSHIP

web会期：2022年10月17日（月）～31日（月）

会長：福原隆宏（鳥取大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 准教授）

### 第31回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会

会期：2022年10月15日（土）～16日（日）

会場：パシフィコ横浜

会長：宮城 悦子（横浜市立大学医学部産婦人科学教室 主任教授）

実行委員長：ルイズ横田 奈朋（横浜市立大学医学部産婦人科学教室）

### 第11回北海道産婦人科乳腺医学会学術集会

会期：2022年10月23日（日）10:00～15:15

会場：オンライン開催

会長：渡利 英道（北海道大学大学院医学研究院産婦人科教室 教授）

### 第32回日本乳癌検診学会学術総会

会期：2022年11月11日（金）・11月12日（土）

会場：アクトシティ浜松

会長：吉田 雅行（社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院 聖隷浜松病院乳腺科）

### **第 20 回日本乳癌学会近畿地方会**

会期：2022 年 12 月 3 日（土）

会場：和歌山ビッグ愛

当番世話人：櫻井 照久（さくらい乳腺外科クリニック）

### **第 32 回日本乳癌画像研究会**

会期：2023 年 2 月 4 日（土）～ 5 日（日）

会場：東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂（ハイブリッド開催予定）

当番世話人：久保田 一徳（獨協医科大学 埼玉医療センター 放射線科 主任教授）

### **第 29 回日本産婦人科乳腺医学会**

会期：2023 年 2 月 26 日（日）

会場：シェーンバッハ砂防会館

会長：川名 敬（日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野 主任教授）

事務局長：小松 篤史（日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野 准教授）

### **第 29 回日本乳腺疾患研究会**

会期：2023 年 3 月 24 日（金）～25 日（土）

会場：札幌医科大学記念ホール

会長：増岡秀次（札幌ことに乳腺クリニック 理事・院長）

# 講演抄録・略歴

### 遺伝性乳がん卵巣がんの当事者・家族に必要な援助

聖路加国際病院 看護部  
大川 恵

日本の遺伝性乳がん卵巣がんの取り組みは、2005年頃から多施設共同研究として始まった。2018年には遺伝性乳がん卵巣がんの原因遺伝子であるBRCAをバイオマーカーとしたコンパニオン検査が、2020年にはBRCAの遺伝学的検査やリスク低減手術が一部保険収載された。同じ時期にがん遺伝子パネル検査が保険収載されたこともあり、2022年現在、BRCAはがん診療のあらゆる場面で検査され、がん治療やがん予防に活用されるようになっていく。

当事者にとって、遺伝性乳がん卵巣がんと診断される日は、がんのなり易さとともに生涯を生きることのスタートになる。人生100年時代と言われる昨今、がんの易罹患性とともに数十年を生き切るためには、良いスタートをきること、自分の体質を正しく理解すること、自分らしい方法で自分の体質と付き合っていくことが不可欠である。

当事者が遺伝性乳がん卵巣がんとともに生きるスタートをきる時、そこにいるのは医療者である。つまり、遺伝学的検査を受ける前から関わる医療者の知識・姿勢・価値観が当事者のその後強く影響し、スタートの在り方を決める。当事者ががんのなり易さとともに長い時間を過ごす時に、そこにいるのは家族である。「家族」は生物学的なつながりがある家族と、そうでない家族がいるが、いずれも当事者の健康に対する考え方や対処に影響を及ぼす存在である。

遺伝看護は遺伝性腫瘍とともに生きる人の援助として、当事者への援助と家族への援助、家族も血縁者とそうでないかを綿密にアセスメントし、包括的なケアを提供する。しかし遺伝性腫瘍の当事者と家族の課題は多様であり、看護だけで対応できることはほとんどない。

本講演では、遺伝性腫瘍と診断される当事者や家族の状況を、模擬事例も用いながら検討し、医療者にどのような援助が求められているか、各職種がどのように介入し連携する必要があるかをフロアの皆様とともに考えていく機会にしたい。

## 略歴

---



聖路加国際病院看護師

大川 恵 (おおかわ めぐみ)

### 【学歴】

- 1996年 岡山大学経済学部経済学科卒業
- 2002年 兵庫県立総合衛生学院卒業
- 2016年 聖路加国際大学博士前期課程修了

### 【職歴】

- 2002年 聖路加国際病院 入職  
緩和ケア病棟、外科病棟などに所属
- 2011年より外来看護師として腫瘍内科、乳腺外科、遺伝診療センター、がんゲノムセンターで勤務

### 【所属学会】

- 日本遺伝看護学会
- 日本がん看護学会
- 日本遺伝性腫瘍学会
- 日本遺伝カウンセリング学会
- 日本臨床腫瘍学会
- 日本乳がん学会
- 日本人類遺伝学会

### 【専門資格等】

- 遺伝看護専門看護師

### 遺伝性乳癌 —HBOC を中心に—

東邦大学医療センター佐倉病院臨床遺伝診療センター・産婦人科  
竹下 直樹

現在多くの病気の原因が、遺伝子の変化によることが解明されて来ている。最近では遺伝子検査の結果をもとに、治療法を選択する場合もあり注目されている。まさに、単に病気を治すのではなく、“その人の病気”を治すという、個別化医療（プレジジョンメディシン）の時代が到来している。

癌の中にも遺伝的要因が強く関与しているものがあり、HBOC: Hereditary Breast and Ovarian Cancer: 遺伝性乳癌卵巣癌症候群は代表的である。1990年メアリークレア=キング博士によって *BRCA1* は17番染色体に局在を同定され、1994年三木義男博士より世界で初めて単離されは遺伝子である。全長110kbの巨大な遺伝子であり、*BRCA2* とともに乳癌、卵巣癌をはじめ、男性では前立腺癌、また膀胱癌の発症と密接に関係している。*BRCA1, 2* 遺伝子は様々な癌種を発症し最新の報告では、食道、胃そして胆管癌との関連も密接である。このような観点から HBOC は広義には *BRCA1, 2* 関連遺伝性腫瘍と呼ばれるようになっており、乳癌と卵巣癌を分けて遺伝性乳癌、遺伝性卵巣癌と呼ぶようになってきている。常染色体顕性（優性）遺伝形式をとり、次世代への伝播はランダムに50%の確率となる。*BRCA* 遺伝子変異の頻度は、日本人では癌の有無に関係なく *BRCA1* は病的変異が0.04%、*BRCA2* で0.17%と報告されており、468人に1人が *BRCA1* あるいは *BRCA2* の病的変異保持者で、決して少ない数ではない。癌既発症者の検査および予防的手術、サーベイランスは2020年4月から保険収載されている。遺伝情報の原則は、①不変性②共有性③予測性であり、患者本人にとっては一生変わらず、家族の間で同じ結果を持つ者がおり、また病気の発症を予測するということである。その結果、治療法を選択、家族への影響、また再発、他の癌の発症に対する適切なサーベイランスを行うことが可能となる。このような性質から検査実施に際しては、安易に行われるのではなく、十分な話し合いが必要であり、“いつ”、“誰が”、“結果が及ぼす影響”について遺伝の専門家による遺伝カウンセリングを検査前・中・後に施行することが極めて重要であり、そのような体制の整備された施設により行われる。

「癌は基本的には遺伝性疾患」である。その中でも HBOC は遺伝的要因による症候群である。遺伝子検査の結果がもたらすものは、本人のみならず家系員にとって大変メリットの大きい有益なものである。私達は、日常の癌診療の中で“遺伝”というキーワードを念頭に置き対応することが極めて重要であり、これから求められる医療であると考えている。

## 略歴

---



東邦大学医療センター佐倉病院  
臨床遺伝診療センター・産婦人科 教授

竹下 直樹 (たけした なおき)

### 【学歴】

- 1963年 6月21日 東京生まれ（東邦大学医学部附属大森病院にて）  
1988年 東邦大学医学部医学科卒業  
1992年 同大学大学院博士課程終了  
1999年 コーネル大学（ニューヨーク）に留学， Dr. Gianpiero D. Palermo（世界初顕微授精の施行者）に師事（東邦大学より給費留学2年間）

### 【職歴】

- 1988年 東邦大学医学部産科婦人科学教室第1講座 入局  
1992年 日本赤十字社埼玉県支部小川病院産婦人科医員（2年間出張）  
1995年 東邦大学医学部産科婦人科学講座 助手  
2004年 東邦大学医学部産科婦人科学講座 講師  
2006年 東邦大学医療センター大森病院臨床遺伝室 室長  
2010年 東邦大学医療センター佐倉病院産婦人科 准教授  
2011年 同院 地域周産期母子センター センター長  
2016年 同院 臨床遺伝診療センター センター長  
2020年 東邦大学医療センター佐倉病院 臨床教授  
現在に至る

### 【所属学会】

- 日本産科婦人科学会， 日本人類遺伝学会 評議員， 日本遺伝カウンセリング学会 評議員  
日本生殖医学会， 日本周産期・新生児学会， 日本生殖再生医学会 幹事，  
日本IVF学会 理事 編集副委員長， 日本生殖心理学会 理事，  
国際クリアリングハウス先天異常モニタリングセンター日本支部 理事

### 【専門資格等】

- 日本産科婦人科学会 専門医・指導医  
日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会認定 臨床遺伝専門医・指導医  
日本生殖医学会 生殖医療専門医  
日本産婦人科医会 先天異常委員会 委員長  
日本周産期・新生児学会専門医・指導医

### 乳癌治療の個別化と低侵襲局所療法

東京西徳洲会病院 乳腺腫瘍科  
佐藤 一彦

乳癌は診断時には全身に微小転移が生じうる全身病であると認識され、手術や放射線照射による局所療法のみならず、全身治療(補助療法)が重要となる。その際、予後と治療効果予測に基づきレジメンやその必要性が検討されるが、病期に加え Luminal A/B・HER2 陽性・triple negative といったサブタイプ分類により決定される。Luminal タイプは、ホルモン療法が中心となるが遺伝子アッセイによる化学療法の要否決定の有用性が示された(TAILORx 及び RxPONDER)。また、高リスク症例には CDK4/6 阻害薬の追加も有用性が示された(monarchE)。HER2 陽性乳癌では、Trastuzumab や Pertuzumab といった抗 HER2 抗体により治療成績は大きく改善した。Triple negative 乳癌では化学療法を中心に治療が行われるが、後者 2 つのタイプには個別化に有用な biomarker は実用化に至らず、術前治療後の残存病変の有無により追加治療の要否が決定される。実際、HER2 陽性乳癌では KATHERINE 試験により抗 HER2 抗体薬物複合体が、triple negative 乳癌では CREATE-X により Capecitabine 追加による予後改善が示された。Triple negative 乳癌に対する免疫チェックポイント阻害剤併用(KEYNOTE-522)や BRCA 変異症例への PARP 阻害薬追加(Olympia)も有効性が示され、本邦での施行が待たれる。

全身治療の進歩は局所制御にも貢献し、低侵襲化に向けて変化しつつある。今回は乳房温存療法、センチネルリンパ節生検、乳房部分照射について概説する。乳房温存療法は、Milan 試験と NSABP B-06 により乳房切除術と同等の生存率及び局所再発率が示されたが、積極的な術前化学療法施行によりその適応が拡大しつつある。乳房のリンパ液が最初に流入するセンチネルリンパ節の転移状況に基づき郭清の要否決定を行う方法は NSABP B-32 により確立されたが、センチネルリンパ節転移陽性症例に対しても腋窩照射により郭清と同等の成績が得られることが報告された(ACOSOG Z0011 及び AMAROS 試験)。臨床的腋窩リンパ節転移陽性例においても術前化学療法により、腋窩照射により郭清を回避しうることも示された。乳房温存療法では、約 3～6 週間の全乳房照射が行われるが、患者負担のみならず、間質性肺炎や心筋梗塞などの合併症も懸念される。腫瘍床周囲のみに照射を行う乳房部分照射では照射期間 1～5 日間と利便性に優れるのみならず合併症低減も期待される。3D-CRT や IMRT による外照射及び小線源を用いた内照射による部分照射については幾つも臨床試験が行われ、全乳房照射に対する臨床的同等性が報告された(NSABP B-39 など)。本邦での更なる普及が期待される。今回は、これら全身治療の個別化とそれに基づく低侵襲局所療法について概説する。

## 略歴

---



東京西徳洲会病院 包括的がん診療センター 乳腺腫瘍科  
副院長 センター長 部長

**佐藤 一彦** (さとう かずひこ)

### 【学歴】

昭和 63 年 4 月 防衛医科大学校医学科入校  
平成 6 年 3 月 同 卒業  
平成 13 年 10 月 防衛医科大学校医学研究科入校  
平成 17 年 9 月 同 修了

### 【職歴】

平成 6 年 6 月 防衛医科大学校病院において初任実務研修  
平成 10 年 8 月 防衛医科大学校において専門研修  
平成 13 年 10 月 防衛医科大学校医学研究科入校  
平成 15 年 10 月 米国ハーバード大学医学部留学  
平成 18 年 8 月 国家公務員共済組合連合会三宿病院  
平成 19 年 10 月 東海大学八王子病院乳腺内分泌外科  
平成 20 年 8 月 東京西徳洲会病院乳腺腫瘍科部長 センター長  
平成 20 年 9 月 中国国立中山大学医学部客員教授  
平成 27 年 5 月 東京西徳洲会病院包括的がん診療センター センター長  
平成 29 年 11 月 東京西徳洲会病院 副院長  
平成 30 年 9 月 東京西徳洲会病院医療安全管理室 室長  
令和 3 年 2 月 東京西徳洲会病院外科 統括部長

### 【所属学会】

日本外科学会、日本乳癌学会、日本癌治療学会、日本臨床外科学会、日本放射線腫瘍学会、American Society of Clinical Oncology

### 【専門資格等】

医学博士、日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会指導医・専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、外国人研修指導医（厚生労働省）

### 【受賞等】

第 5 回日本乳癌学会奨励賞（平成 11 年）  
財団法人がん研究振興財団第 34 回がん研究助成金（平成 14 年）  
日本外科学研究奨励賞（平成 16 年）  
第 5 回深洲乳癌学会功劳賞（平成 24 年）  
第 119 回日本外科学定期学術集会優秀演題賞（平成 31 年）

### 有床診療所における妊婦乳房スクリーニングの実際

医療法人社団 赤恵会 赤川クリニック  
赤川 元

【背景】妊娠関連乳癌の多くは妊娠・授乳による乳房変化によって視触診のみで早期に発見されることは少なく、多くは進行癌の状態で見られる。その時、母親、妻として、家庭の中心的存在である女性に降り掛かる不幸を1例でも少なくするため、妊娠関連乳癌早期発見を目的とした乳房スクリーニングを妊婦健診の一つとして行い、視触診法と乳腺超音波検査の併用が有用であることを明らかにし、日本産婦人科乳腺医学会、日本乳癌検診学会、日本乳癌学会、日本産科婦人科学会、日本女性医学学会に於いて報告を続けてきた。今回、症例数が8,000例を超え、その成績を報告する。同時に、スクリーニング以外に産褥の乳腺疾患を見る機会も少なくなく、経験した乳癌症例についても報告する。

【方法】妊婦8,042名を対象に、妊娠初期に視触診・超音波検査併用スクリーニングを行った。視触診で乳頭分泌、硬結、腫瘤、超音波検査で腫瘤性、非腫瘤性病変を認めたものを要精検とした。

【結果】【結論】視触診で異常があったもの5.5%、USのみで異常が11.6%。触診で腫瘤を触れたものの89.4%に超音波で異常を認めた。超音波の異常所見は嚢胞80.0%、充実性腫瘤15.7%、非腫瘤性低エコー域4.3%。要精検389例の結果は、乳癌1例、妊娠性変化37.0%、線維腺腫38.6%、嚢胞11.5%であった。スクリーニング成績報告に加え、産褥期に経験した乳癌症例も紹介する。一般的な乳癌検診とは異なる、女性のライフサイクルを意識した妊婦乳房スクリーニングの意義と、適切な妊婦乳房スクリーニング確立には、妊娠という特殊な生理現象を理解した産婦人科医の参加が重要であることを知って頂き、一人でも多くの先生方に興味をもって頂きたいと考えている。

## 略歴



医療法人社団 赤恵会 赤川クリニック 理事長

赤川 元 (あかがわ げん)

### 【学歴】

1981年：麻布獣医科大学獣医学部獣医学科卒  
1987年：帝京大学医学部医学科卒  
1994年：同大細菌学教室大学院修了、医学博士

### 【職歴】

| 年 月              | 勤 務 施 設            | 職 名    |
|------------------|--------------------|--------|
| 1987年6月～1994年9月  | 帝京大学医学部附属病院産婦人科学教室 | 勤務医    |
| 1989年4月～1991年3月  | 西新井病院 出向           | 常勤医    |
| 1991年4月～1994年9月  | 帝京大学医学部免疫細菌学教室大学院  | 大学院生   |
| 1994年10月～1998年3月 | 赤川医院               | 院長     |
| 1998年4月～         | 医療法人社団赤恵会 赤川クリニック  | 理事長、院長 |

### 【所属学会】

日本産科婦人科学会、日本産婦人科乳腺医学会、日本女性医学学会、日本乳癌検診学会、  
日本乳癌学会、日本周産期新生児医学会、日本産科婦人科遺伝診療学会

### 【専門資格等】

日本産科婦人科学会・専門医  
日本乳癌学会・乳腺認定医  
日本産科婦人科遺伝診療学会・認定医（周産期）  
母体保護法指定医師

### マンモグラフィと超音波検査の総合判定の実際

宮城県立がんセンター 乳腺外科  
大貫 幸二

マンモグラフィ（以下 MG）検診は 40 歳代ないしは高濃度乳房において感度が低いため、超音波検査（以下 US）の上乗せが検討されている。無作為化比較試験である J-START により US の上乗せによる感度の上昇は証明されたが、死亡率減少効果の検討にはもう少し観察期間が必要で、特異度は低下した。利益が不明で不利益が増加するので、現時点で対策型検診に US を導入することは推奨されていない。

総合判定は、MG と US の結果を別々に判定して要精検者を決定するのではなく（独立判定）、両者の結果を総合的に判定して、感度を保ったまま特異度を低下させる方式である。2015 年に日本乳癌検診学会で「マンモグラフィと超音波検査の総合判定マニュアル」が作成された。その判定基準の原則は、精密検査の第一段階の考え方を検診の時点に適応することである。例えば、MG で境界明瞭平滑な腫瘍（カテゴリー3）があっても、US でその腫瘍が単純嚢胞であると確認できた場合には、最終判定をカテゴリー2 とすることによって、不要な精密検査を減少させることができる。総合判定における具体的な US の役割は、1) MG では判定困難な高濃度領域における病変の検出を行う（感度上昇）とともに、2) MG で認識された腫瘍・局所的非対称性陰影に対して質的診断を行い、不要な精検を減少させる（特異度も上昇）ことである。

精度の高い総合判定を行うには、MG と US で得られた所見を、位置と組織型を推定して対比させる必要がある。MG 上の所見がある部位を仰臥位の乳房に投影するためには、MLO の撮影角度を考慮する必要があり、X 軸と 0 軸を用いて部位を推定する。組織型推定には乳腺疾患の病理学的知識が必要になるが、初級者は大きさ、辺縁、濃度（US は縦横比、エコーレベル）を評価して、MG と US が同じ病変を見ているのかをチェックする。そのためには、可能な施設は MG 所見を参照しながら US を行う同時併用方式を行うことが推奨されている。

岩手県では、40 歳代の対策型検診に MG と US の併用検診を行っており、低い要精検率と高い陽性反応的中度が報告されている。また、乳房の大きさ（MG の圧迫乳房厚）によって、US の精度が変わることが確認された。人間ドックなどの任意型検診では US も広く行われており、受診者の不利益を減少させるためには現時点でも総合判定の普及と精度向上が急務である。

## 略歴

---



宮城県立がんセンター乳腺外科  
診療科長

**大貫 幸二** (おおぬき こうじ)

### 【学歴】

1981年 群馬県立桐生高校卒

1987年 東北大学医学部卒

### 【職歴】

1989年 東北大学医学部第二外科入局、乳腺グループ所属

2004年 岩手県立中央病院乳腺外科長

2021年4月より現職

### 【所属学会】

日本外科学会、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会、日本乳腺甲状腺超音波医学会、日本超音波医学会、日本がん検診・診断学会、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会

### 【専門資格等】

日本外科学会；指導医・専門医

日本乳癌学会；指導医・専門医・評議員・検診関連委員会委員

日本乳癌検診学会；理事・研修委員会委員長・第30回学術集会会長（2020年11月）

日本乳腺甲状腺超音波医学会；幹事・第35回学術集会会長（2015年9月）

日本超音波医学会；専門医

日本乳がん検診精度管理中央機構；副理事長

東北大学医学部臨床教授（乳腺内分泌外科）

### 産婦人科の臨床で、よく遭遇する乳房疾患

関根ウィメンズクリニック

関根 憲

日本人女性において最も罹患率の高い悪性疾患は乳癌であり、例年9万人以上の方が罹患し、1万人以上の方が亡くなっており、その罹患数は今なお増加傾向にあります。早期に見つかれば生存率は高く、ブレストアウェアネスの啓発とともに早期発見、早期治療が重要であることは間違いないことと思われまます。

しかしながら、産婦人科一般外来では、痛みやしこり感などを主訴に、相談にみえる患者さんが多いと思いますが、多くは良性疾患であり、乳癌はそれほど多くはありません。

ただ、いずれの患者さんも不安で来院されていますので、明らかな良性のものは良性としてfollowし、治療に難渋しそうな症例や、乳癌の可能性のある病変は的確に拾い上げて、乳腺専門医との連携を図っていくことでよい医療を展開することが重要になります。それには産婦人科医だけでなく、特に妊娠・授乳期においては、助産師さんなどのコメディカルの方々の協力も大事になってきます。

今回、実際の臨床でよく遭遇する疾患について、妊娠・授乳期も含め、画像を供覧しながら、お話できればと考えています。

## 略歴

---



関根ウィメンズクリニック 理事長

**関根 憲** (せきね けん)

### 【学歴】

1994年 3月 東京慈恵会医科大学卒業

### 【職歴】

1994年 5月 東京慈恵会医科大学病院にて研修開始

1996年 4月 東京慈恵会医科大学 産婦人科教室に入局  
東京慈恵会医科大学附属病院（本院、第3、柏  
富士市立中央病院にて、産婦人科医として勤務

1999年 4月 千葉大学大学院（地域医療学）入学  
神奈川県衛生看護附属病院 産婦人科 非常勤

2003年 3月 千葉大学大学院修了 博士号取得

2003年 4月 関根産婦人科医院 副院長  
神奈川県衛生看護附属病院 産婦人科 非常勤

2004年 4月 聖路加国際病院 放射線科

2009年 4月 関根ウィメンズクリニック（関根産婦人科医院より改名）院長

2022年 4月 関根ウィメンズクリニック 理事長 現在に至る

### 【所属学会】

日本産婦人科学会、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会（理事、評議員）

日本産婦人科乳腺医学会（常務理事、評議員）

日本周産期・新生児学会、日本女性医学会、日本母性衛生学会

日本超音波医学会

日本乳腺甲状腺超音波医学会（評議員）

日本乳がん精度管理中央機構（理事）

日本産婦人科医会がん対策委員

東京産婦人科医会がん対策委員

練馬区医師会乳がん検診班長

### 【専門資格等】

日本産婦人科学会産婦人科専門医、日本乳癌学会乳腺専門医

日本女性医学会女性ヘルスケア専門医

日本超音波医学会超音波専門医

日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ読影認定医（As 評価）

日本乳がん検診制度管理中央機構超音波検査認定（A 評価）

日本産婦人科乳腺医学会乳房疾患認定医、日本医師会認定産業医

---

## 協賛企業一覧

---

株式会社ツムラ  
株式会社ネクサスエージェント  
富士フィルムヘルスケア株式会社  
森永乳業株式会社

五十音順 2022年8月1日現在

---

### 謝 辞

第13回 関東産婦人科乳腺医学会の開催に際しまして、上記の企業・団体から多大なるご助成、ご協賛をいただきました。ここに感謝の意を表します。

第13回 関東産婦人科乳腺医学会  
会長 瀬戸 裕